行革甲子園

ローコードツールを活用した「避難所運営支援システム」の開発・オープンデータ公開（大分県別府市）

人口　113,252人（R4.1.1現在）

担当　企画戦略部　情報政策課

取組概要

ローコードツールを活用した「避難所運営支援システム」の開発・オープンデータ公開

・ローコードツール「kintone」を活用した「避難所運営システム」を内製で作成
・コロナ禍における避難所運営の課題を洗い出し、「避難所ごとの避難者数表示システム」、「避難所入所時の滞在区分判定システム」、「避難所への避難予定数事前入力システム」を作成。
・他の自治体が抱える課題も同様なことが想定されるため上記システムをオープンデータとして公開

取組の効果

①避難者数報告の作業縮減率　83%

・以前は各品難所から電話報告→とりまとめで約60分かかっていたものが、避難所運営システム導入後約10分まで縮減。

②他の課の別業務に展開

・このシステムを実際に操作した職員が自分の業務でも活用したいとの相談があり、市の名産品の受注・納品管理システムを開発するに至った。

③他自治体にシステムのテンプレートを提供

・オープンデータとして公開したことで他自治体にもシステムを共有。

創意・工夫した点

①ローコードツールを活用し内製

・ローコードツールかつ内製のためシステム開発が容易、短時間で可能に。

②アジャイル開発を実践

・改善点があれば、即座に対応。常にアップデートを図る。

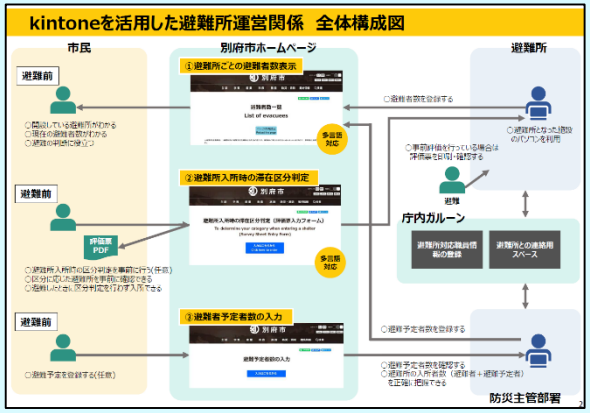
他団体へのアドバイス

①とりあえずやってみる

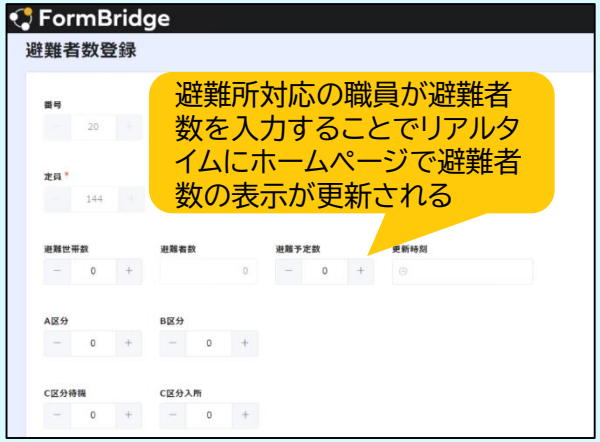
・ローコードツールかつ内製のためシステム開発が短時間で可能に。

②シェアする

・庁内外でシェアすることで新たな気づきや業務改善につながることも・・・。



避難所運営関係全体構成図



避難者数登録画面